

「商業まちづくり復興課題対応モデル事業」活用事例

福島県商工労働部商業まちづくり課

県では、商業機能を維持するなど、避難者や高齢者をはじめとする県民が安心して暮らせる商業まちづくりに資するモデル的な取組を実施する市町村等に対し、「福島県商業まちづくり復興課題対応モデル事業」による支援を行っております。平成26年度は天栄村、三春町において本事業を活用した取組が実施されました。

○ 商業機能の維持、確保に向けた取組

「天栄村商業活性化実証実験事業」(天栄村)

天栄村では、高齢化の加速に伴い車を運転しない高齢者が増加しており、また村内で生鮮品を購入できる店がないという現状を踏まえ、村内での買い物環境の向上を目的に、生鮮品販売を可能とする設備の導入及び買い物デマンドタクシーの実証実験を行いました。



村内商業施設(道の駅「季の里」)に冷蔵庫を設置することで、肉、魚などの生鮮品の購入が可能となり、住民の買い物環境の向上が期待されます。買い物デマンドタクシーについては、移動手段を持たない高齢者に概ね好評であり、今後は村による実証実験の検証がなされる予定です。

○ 賑わい創出のための取組

「蔵を活用した観光・商業復興拠点整備事業」(三春町)

三春町では、震災後の観光客と農産物消費の落ち込みが震災前の水準に回復しない状況であるほか、中心市街地の空き店舗が震災後増加傾向にあるなど、まちの賑わいが失われつつあります。このため、町内中町地区の「中町蔵」を改修し、観光や町産業の情報発信拠点となる施設を整備しました。



敷地内には蔵が三棟あり、その他二つの蔵についても特色のある店舗として近日開店予定です。中町蔵全体が住民や観光客にとって魅力ある施設となり、中心市街地の観光資源、情報発信拠点となることが期待されます。

